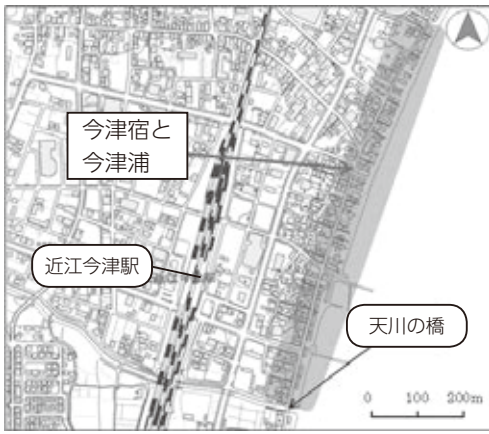


今津宿と今津浦

交通の要衝 今津宿

今津宿は天川の橋のある現今津町南浜から北浜にかけて築かれた宿駅です。江戸時代末期の今津を描いた「今津図」を見ると琵琶湖に浮く島のような地域の中に形成された宿駅であったことがわかります。この地は北国街道（西近江路）が縦断し、今津浦があったことから、水陸両面で交通の要衝となっていました。このため、多くの物資が集まり、荷物の管理を行う荷問屋のほか、人馬で輸送業者を中継する施設である駅問屋



も置かれていました。文政6年（1823）の記録には荷問屋が9軒あり、そのうち一軒を問屋としていたことが記されています。現在でも当時の面影を残す建築物や湖岸に築かれた石垣を見ることが出来ます。

今津浦の面影

今津浦には、小浜や敦賀から多くの物資が運ばれました。今津浦はこれらの物資を湖上運輸によって大津へと輸送する中継地点であり、重要な港として運営されてきました。琵琶湖上には、大津を含め、湖東の長浜や彦根、八幡への航路も整備され、今津浦から物資の運搬が行われていました。慶安2年（1649）の記録によると、今津浦には少なくとも52艘の船があり、103人の水夫を保有していたことから、大規模な港であったことがうかがえます。今津浦には住吉神社をはじめ複数の神社のほか、金沢藩今津代官所が置かれていました。今津浦の湖岸に



今津の石垣

は、周辺に築かれた石垣が見られます。この石垣は金沢藩が巡見使の巡国に備えて築いたとされ、約950mの長さがあります。近代まで、防波堤としての役割を担っていました。代官所周辺の石は比較的巨大なものが積み、浜辺に突出した部分があることから、今津浦の船場の痕跡であると考えられ、当時の面影を今に伝えています。

図文化財課

☎ (25) 8559

新しく天然記念物に指定 「白谷の夫婦椿」

平成31年3月20日、高島市教育委員会は「白谷の夫婦椿」を高島市の天然記念物に指定することを決定しました。「白谷の夫婦椿」は、マキノ町白谷の白谷荘歴史民俗博物館駐車場に隣接する場所にあるヤブツバキで、約2mの間隔で2本が並んでいます。県下では最大、全国的にみても巨樹の一つであると考えられています。天然記念物の指定は、高島市成立以降は初めてとなります。



夫婦椿

編集 雑感

皆さん、広報たかしま6月号はいかがでしたか？ペーロン大会やトライアスロンの記事を見ると、夏がもうすぐそこまで来ている気がします。でも、その前には、ジメジメとした梅雨がやってきます。

6月は土砂災害防止月間。「日頃の備え」と、もしもの時は「早めの避難」を心がけて、安全に梅雨の時期を乗り越えましょう。季節の変わり目は、体調もくずしやすいものです。体のメンテナンスもお忘れなく！（YK）



広報たかしま

令和元年

6

月号 No.233

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
〒250-1502 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎ 0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉ t-info@city.takashima.lg.jp